

■会議結果報告書■

会議の名称	令和４年度札幌市子ども・子育て会議児童福祉部会 ひとり親家庭等自立促進計画作業WG（第１回）
日時・場所	令和４年８月２３日（火）１３：００～１４：１０ みどりの推進部大会議室（ＷＥＢ会議）
出席委員 ７名／７名中	加藤 弘通（議長）、箭原 恭子（副議長）、大場 信一、椎木 仁美、 藤原 里佐、猪狩 ふみの、村山 光明（敬称略）
傍聴者数	１名

議事	概要等
○議題 アンケート調査の内容について	<審議概要> 事務局より、以下の資料について説明を行った。 ・資料１ ひとり親家庭等自立促進計画の一部改定に係るアンケートの実施について ・資料２ ひとり親家庭等の生活と意識に関するアンケート <主な委員質問・意見> ○加藤委員 資料１について、数値目標が掲げられているが、細かい数字があったり、父子家庭と母子家庭で目標値が違ったりするところは、どういった根拠で決まってきたのか知りたい。具体的には、２ページ目の大学進学割合が38%となっているところや、３ページ目の養育費の取決めをしている方が母子家庭だと60%、父子家庭だと30%と開きがある。前の値から見てだとは思いますが、札幌市の姿勢を示すことにもなると思うので、このあたりの根拠を教えてください。 ○事務局 お手元に札幌市ひとり親家庭等自立促進計画の冊子をお持ちの方は、74 ページをご覧ください。成果指標ごとに、前回と同じ値を設定している場合や、大学進学割合だと前回の8割相当の数値を目標値としているなど、そのように定めている。加藤委員からお話のあった養育費の関係も、前回と同じ値を目標値としている。 こういった形で、ある程度実績に基づいて、5年前に目標の設定をしているところ。

○藤原委員

・全体として、過去の計画と北海道のアンケートとも比較検討をするということが前提で、あまり項目や内容を変えない方がいいということで作成されていると認識している。

・質問7の「困っていることがありますか」のところに住居や子育てとあるが、私が把握している問題の中で、母子家庭のお母さんの率直な悩みとして、彼氏がいるかいないかということと、ステップファミリーに踏み出して再婚できるかどうかや、結婚をしなくてもパートナーという人がいればもっと生活が豊かになる、というそういった面での悩みが若い人たちだととても多いと感じている。しかし、このアンケートにはこういった点がどこにもないので、せめて新しい項目を付けなくても、質問7の中に「交際相手について」とか「ステップファミリーの形成について」とか、そういったものをいれるのはどうか。子どものことやお母さんの仕事のことも、心配や悩みはあると思うが、それと同じくらい自分自身の人生において、パートナーがいるのかいないのかといことの比重がとて高く、20代くらいの女性がひとり親になった時には、次の結婚をどうするかということがとても大きいと思うので、どこかに少しでもあるといいのでは。

・質問10で、今回から心身の健康についての項目を道と同じ設問ということで入れたということだが、「神経過敏に感じた」や「何をするのも骨折りだ」というのが、表現として若いお母さんに通じない人もいるのではないかな。また、AからFの「感じましたか」ではなくて「感じる」にして、過去形で聞く意味があまりないのではと思う。

・「4家計の状況について」の選択肢で、黒字とか赤字といったことを、家計簿をつけて出している人ばかりではないと思うので、「不明」や「わからない」があった方がいいのでは。これがわかれば家計管理できるが、こういったことが苦手だったり経験がないということが、母子家庭のお母さんの生活困窮の一端にもなっていると思うので、ここは「わからない」があった方がいいと思う。

○事務局

選択肢の記載事項も含めて、検討したうえで改めてご相談させていただく。

○大場委員

・質問5について、中退の場合どこに記載するのがいいのか、はっきりした方がいいと思う。答える人が答えやすいように、中退の場合はどこにはいるのか、その項目を付け加えるのか、そこが必要ではないか。

・質問7について、児童養護施設にはひとり親家庭の出身という方がとても

	多く、なかでも母子世帯が多いが、お母さんや子ども達と話すときに、お母さん達から「元配偶者との関係」について困っているという話をよく聞くので、項目として入れるのはどうか。 ・質問 8 の選択肢に、「交際相手」や「パートナー」と具体的に入れてはどうか。 ・質問 11 の「お子さんの健康・発達について」は、お子さん 1 人であればいいが、2 人、3 人の場合はどのように記載するのか、1 人目、2 人目、3 人目で回答を分けるのか、3 人の子どもでどれかが当てはまればいいのか、そこを明白にした方がいい。 ・質問 12-1 について、「6. 保育所等の保育施設」と「7. 幼稚園」と書いてあるが、認定こども園はどちらにいいか親は悩む。認定こども園は、幼稚園型、保育園型、幼保連携型があるので、そこがわかるようにした方がいい。 ・中学生、高校生のお子さんがある方への質問で、「交友関係」という選択肢があるが、子どもと親から聞くのは「異性」との関係。そして、中高生、小学校高学年は「ひとり親になった理由の告知」というのも、子ども自身が自分のせいではないかと思っている子がけっこういるので、どのように説明したらいいか、お母さんから相談を受けることもある。ひとり親になった理由とか経過を子どもに対する説明ということで、悩まれていることはないか。 ・家庭での決まりとして一番出てくるのが、門限とお小遣い。そういう選択肢も入れてはどうか。 ・仕事の悩みについて、現在の仕事での悩みとか不安という項目があったと思うが、セクハラやマタハラなどのハラスメントの問題が仕事上の悩みとして大きいということがあるので、ハラスメントという選択肢も入れることを検討してほしい。 ○事務局 ハラスメントの項目は、質問 26 のところに入れる。選択肢のどこに入れるかも含めて、検討したうえで改めてご相談させていただく。 ○猪狩委員 ・今回の新たな項目、お母さんの心身の健康について、母子生活支援施設も定期的に 4 年に 1 度の実態調査や色々な基礎調査をしているが、精神疾患の方がとても増えているのでこの項目が入ったことはとても良いが、言葉は答えやすい、馴染みのある言葉の方がいいと思う。 ・質問 39 と 40 は新設ということで、ひとり親になった入り口のときの相談
--	--

は大事なので、この質問が入ったのは良かったと思う。ひとり親になったとき、どういうことで悩んで、どういうことをしたらいいか、というところが施策に活かされていくといい。

・あまりボリュームがあると、答える側も引いてしまうところもあるので、答えられる範囲で設問を考えることが大事。

○事務局

検討させていただく。

○加藤議長

質問 40 の選択肢に「親族」があるが、他の質問には「親」と「親以外の親族」と分けてある。ここも「親」と「親以外の親族」で分けた方がいいのでは。親に相談できる方とそうでない方で状況が変わってくると思う。

○事務局

検討させていただく。

○椎木委員

・質問 41 の財産分与の記載について、例えば質問 45 で金額に幅を持たせている選択肢と同じように、財産分与の金額についても尋ねるような質問にすることで参考になることがあるのでは。例えば、100 万以下、100 万～300 万、300 万～500 万とか、そういった選択肢のイメージ。熟年離婚のケースだと、財産分与は一般的に多くの過程で発生することがあるが、若い子育て世帯のご夫婦の離婚だと、そもそも婚姻期間が短いことや、生活や教育にお金がかかっていて貯蓄があまり貯まっていないとか、そういった事情がある。財産分与の基本的な考えとしては、結婚期間中に夫婦の収入から貯めたものをお互いに分け合うというものなので、一方が個人的に相続したお金だとかは入らないので、子育て世帯の離婚だと多額にはならない、離婚後の生計に及ぼす影響も実はあまり高くない可能性がある。そういった観点からいくと、財産分与している人が割合として、前回の資料でも少なかったと思うが、やろうとしてできなかったのではなくて、そもそもそういう事案ではなかったと考えられるので、その区分けがわかりやすいような形にするために、金額とかお聞きできると、情報として有益だと思う。

・質問 41 の「4. 相手の借金を払うこととなった」というのが、基本的には保証人になっていたケースだと、相手の借金を払うというよりは自分の借金として対処せざるを得ないが、きちんと法律相談に来ていただければ法的な問題として相手の借金を背負わされることは原則ないはずなので、誤解を招くことにならないか少し懸念しているが、アンケートの項目として間違いとまでは言えないので、問題意識として持った部分ではある。

	○事務局 財産分与の金額の部分に関して、検討していく。金額の幅やこういった例示で聞くかについては、ご相談させていただきたい。質問 41 の選択肢 4 の表現についても、検討の上でご相談させていただきたい。 ○村山委員 ・実際にアンケートに答えていただく方が答えやすい選択肢にしておいた方が良い。 ・けっこうボリュームがあるので、回答している途中で止めてしまうことがないように、配慮した方が良いと思う。 ○箭原委員 ・質問数が多くなると途中でいやになってしまうので、選択肢を選ぶのも、選びやすい表現が大事。硬い文章になると、読むだけでいやになってしまう。 ・養育費の新設の質問は良いと思う。 ・藤原先生のところと反対に、次の結婚や相手ということに対して拒否反応を示すようなお母さん達の方が私の会社には多いので、その設問の言葉は選ぶのが難しいと思う。 ○加藤議長 ・文字の尺度は他にもわかりやすいものがあると思うので、検討課題である。北海道と合わせるのはとてもいいことだと思うが、それより答えてもらえない方がもったいないと思う。 ・お子さんの性別を聞かないのは一つの手だと思うが、私は聞いた方がいいと思う。例えば父子家庭の場合、お子さんが思春期にはいったときにどう対応したらいいか困るというのはけっこう聞く話である。当事者の方が性別を選ぶのは慎重になろうという動きはあるが、お子さんの性別を聞くことはむしろ必要な情報だと思うので、検討していただけるとありがたい。 ・質問 33 について、子どもの生活実態調査でも出てきたが、ひとり親や貧困家庭の場合、保護者の方が医療控えをするということがある。お子さんの医療控えはあまり起きない。「医療を控えた」という項目は、一般家庭との比較も可能なので入れた方がいいのでは。 ・質問 30 について、「情報通信関係」と入れていて、Web のことを指しているとの説明だったが、若い保護者の方が Web デザインとかを思いつくのか疑問。身近にいる方に聞いていただいて、どういう言葉が適切かは検討した方が良い。 ○事務局 こちらで案を考えてご確認いただき、載せるかどうかも含めて検討させてい
--	---

	ただく。 加藤議長からお話のあった性別の部分について、子どもの思春期のことも踏まえて子どもの性別については記載を検討すべきであるというご意見だったが、その点について他の委員の方のご意見もこの場でお聞きしたい。 ○箭原委員 ・父子家庭の相談を行っているが、経済問題が80%くらい。その中で、やはり娘が思春期に入ったときに、どう対応したらいいのかという相談もけっこうある。お父さんとしては、どれをどこに相談したらいいのかという事で、父子相談窓口に来てくれる。アンケートの項目にいれて、なおかつ、そういった相談窓口はここにあるということがアンケートでわかる、という風につながっていくと情報として広がっていくと思う。 ・医療についても、医療の補助が出ているのは子どもまでで、お母さんは入院しか補助されず、札幌市に要望を出しているが、ひとり親家庭に対しての補助はない。札幌市として、ひとり親家庭の医療費は無料にするなどあれば、政令市として素晴らしいなと思う。 ○事務局 ご意見については、検討させていただく。 子どもの性別については、記載した方がいいのではという箭原委員からのご意見だったが、他の委員の方も同じという理解で良いか。 ＜委員全員（椎木委員、退席）頷く＞ それではその方向で、検討させていただく。 ○加藤議長 最後に、椎木委員の方からチャットにコメントが入っており、要望がでおりますので、こちらも検討課題にあげてほしい。 ＜椎木委員からのコメント＞ 子どもの性別欄に関して、男性、女性の選択肢を入れたとした場合に、「未回答」「回答しない」など第三の選択肢も入れることで一定の配慮とするような事例もあるかと思うので参考までに。ただ、「回答しない」と回答させられること自体も苦痛という当事者の方のご意見などもあると聞いたことがあるため、参考情報としてお伝えする。 ○加藤議長 改めて要望等がある方は、メール等で事務局と連絡をとっていただけるとありがたい。今日の議題については、一旦終わりとする。
--	---